

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会
地上業務委員会（第 60 回） 議事概要（案）

1 日 時

令和 2 年 10 月 23 日（金） 14:30～15:55

2 場 所

Web 会議

3 出 席 者（敬称略、順不同）

[専門委員]

三瓶 政一（主査：大阪大学）、小川 博世（主査代理；情報通信研究機構）、足立 朋子（東芝）、飯塚 留美（マルチメディア振興センター）、上村 治（ソフトバンク）、齋藤 一賢（日本電信電話）、斉藤 佳子（パナソニック）、阪田 史郎（東京大学）、田北 順二（全国船舶無線協会）、西岡 誠治（電波産業会）、橋本 明（NTTドコモ）、増田 浩代（富士通）、松永 彰（KDDI）

[関係者]

伊藤 史人（日本放送協会）、横畑 和典（日本放送協会）、小山 敏（電波産業会）、吉野 仁（ソフトバンク）、宮寺 好男（日本無線）

[事務局]

総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室 田中課長補佐、丸橋係長、稲葉官
総務省移基幹・衛星移動通信課 川津原係長、伊敷官
総務省移基幹・衛星移動通信課基幹通信室 熊原課長補佐、内田官

4 配 付 資 料

資料地-60-1	第59回地上業務委員会議事概要（案）
資料地-60-2	ITU-R SG 5関連会合報告書（案）
資料地-60-3	ITU-R SG 5関連会合への日本寄与文書（案）
資料地-60-4	ITU-R SG 5関連会合の対処方針（案）
参考資料1	ITU-R SG5関連会合の開催案内
参考資料2	ITU-R SG5第17回会合の開催案内
参考資料3	ITU-R SG5関連会合の日本代表団一覧
参考資料4	地上業務委員会構成員名簿

5 議 事 概 要

(1) 地上業務委員会（第 59 回）議事要旨について

【資料地-60-1】

地上業務委員会（第 59 回）の議事要旨について、事務局から説明があり、意見等がある場合は、10 月 26 日（月）までに事務局に連絡することとされた。

(2) ITU-R SG 5 関連会合の報告について

【資料地-60-2-1、地-60-2-2、地-60-2-3】

ITU-R SG 5 WP 5A 第 23 回会合、WP 5B 第 24 回会合、WP 5C 第 23 回会合の報告について、事務局から行われた。

(3) ITU-R SG 5 関連会合への日本寄与文書案について

【資料地-60-3】

ITU-R SG 5 WP 5A 第 24 回会合、WP 5B 第 25 回会合、WP 5C 第 24 回会合への日本寄与文書案について、事務局から説明があった。

【資料地-60-3-1】

「勧告 ITU-R M. 1824-1 の改訂提案 共用検討で使用する移動業務における TVOB、ENG、EFP のシステム特性」について、日本放送協会の伊藤氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： この議論は、期間はいつ頃までを想定しているか。

伊藤氏： このシステムは、まさに使われ始めたばかりであり、しばらくは使われると思うので、ぜひこの勧告案に反映させたいと思う。通常、勧告に反映させるためには、数回の審議を経るため、少なくとも二回、三回の会合を経て議論をすることとなると考えている。

三瓶主査： 了。

【資料地-60-3-2】

「陸上移動通信ハンドブック第 4 巻 高度道路交通システム（改訂版）の暫定改訂案への修正提案」について、電波産業会の小山氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： 今回終了ということであるが、今回の修正事項は議論にならないようなエディトリアルな修正に近いということか。

小山氏： 四年間ほど議論しており、前回大分修正を行い、ほとんど終了している。日本と韓国、米国とで別途調整しており、作業はほとんど終了している。マイナーな話であり、しかもオンラインの会合ではほ

とんど議論にならないため、もうすでに準備しているということで、今回も少数の変更で完了させるという段取りとなっている。

三瓶主査： 了。

【資料地-60-3-3、地-60-3-4、地-60-3-5、地-60-3-6】

「レポート草案 M. [252-296 GHZ. LMS. FS. COEXIST]に向けた作業文書の提案」、
「レポート草案 M. [252-296 GHZ. LMS. FS. COEXIST]に向けた作業文書に関する WP 5G へのリエゾン文書の提案」、「レポート草案 M. [252-296 GHZ. LMS. FS. COEXIST]に向けた作業文書に関する WP 3J、3K、3M へのリエゾン文書の提案」及び「レポート草案 M. [252-296 GHZ. LMS. FS. COEXIST]に向けた作業文書に関する外部機関へのリエゾン文書の提案」について、情報通信研究機構の小川構成員から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員： 陸上移動WGで見せてもらったが、レポートへの作業文書について、英文のp. 7以降にセクションのタイトルがあって、テキストがまだ書いていないところがある。今の段階ではもちろん結構であるが、空いているところに” TBD” や” To be provided” など、今後入れていくという意味を入れてもらった方が、形としては整うと思う。p. 9のAnnex 1のタイトルについて、” Recommendations” と複数となっているが、勧告P. 2109は一つなので” s” は要らない。また、一行目” This Annex estimate” となっているが、ここは逆に” estimate” の後に” s” が要るので、” estimates” となる。同じエディトリアルな点を、p. 10のAnnex 2にも反映させてもらいたい。

小川構成員： 了。反映させる。

【資料地-60-3-7】

「レポート ITU-R M. [CAV]作業文書への修正提案」について、ソフトバンクの吉野氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： 今回、隊列走行の部分を主に入れられるが、ほかに入れる要素はないのか。

吉野氏： 今のところ、プレースホルダーは出来ているが、現状では隊列走行についてはある程度要求条件が分かっているので、その部分を優先的に今回提案したという状況である。内容によっては、ほかの項目についてもユースケースを提案できると思うが、今回は隊列走行のみに限定している。

三瓶主査： 了。

【資料地－60－3－11】

「F. 699-8 の改訂に向けたエレメントへの追加」について、情報通信研究機構の小川構成員から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員： 固定WGで提案され、そのときはコメントしなかったが、今の説明を伺うと、p. 2以降のAttachmentを、一つはレポートF. 2416にそのまま反映させる、もう一つは同じデータを勧告F. 699の改訂のためのエレメントにも提案するという趣旨であったと思う。レポートの改訂の方は提案自体もシンプルなので、よいかもしれないが、先にそちらが了承されると、レポートに入っているものと全く同じアンテナパターンの図をそのまま勧告F. 699にも入れるわけにはいかなくなるので、いくつかピックアップするなり、勧告の方は精査してデータをアップデートするなり、今後他の国からも提案があるかもしれないが、要するに二つのデータをレポートと勧告に全く同じに入れることは好ましくないということ留意していただけたらと思う。今回の寄与文書についてはこのままで結構であると思うが、今後の対応として。

もう一点は、レポートのF. 2416は、特性のレポートであり、何を提案されても自由であるが、勧告F. 699は干渉検討用のレファレンス・パターンを規定するものであることから、今回提案するものが干渉検討のレファレンスとして適切であることを今後了解してもらった上で、さらにパターンを定式化して、数式として高い周波数帯はこの式を使えと持って行かなくてはならない。F. 699には、パターンの式とともに、必ずしもそれに該当しないデータも収録されているので、提案することは結構であるが、最終的に、どのようにF. 699でこのデータを活用するか、勧告の目的をよく理解していない人たちへの説得も含めて、今後の対応をよく考えられたらと思う。

寄与文書の内容に対するコメントではなく、会合での対応について、意見をお伝えした。

小川構成員： 了。実際上は、勧告F. 699については、ハイム・マザール氏が熱心に改訂に向けて準備しているが、すでに前回の会合において、F. 2416に載っているデータと100 GHz帯のデータ等を使って、彼の方でいろいろと比較検討がなされている。それに追加するような形で、我々の方でデータを提供する感じに現状の書きぶりはなっ

ている。先ほど言われた、F. 2416に差替えの形で提供するデータの一部を使って、F. 699の改訂の可能性を検討してほしいというスタンスで臨みたいと思う。

そうすると、カバーページの書き方を若干変えるようにするか、F. 699の追加エレメントとして提供しているが、そういうスタンスではなく、F. 2416のAnnexの改訂版として提供して、その一部のデータをF. 699の改訂に使ってください、という書き方がよいかと思いはじめている。悩ましいところであるため、そちらがよいということであれば、カバーページを全面的に書き換えて、F. 2416のために測定データを提供する、その一部をF. 699のエレメントとして使ってもらいたい、というふうな寄与文書のスタイルにする。

橋本構成員： ロジックとしては、それが分かりやすい。一先ずレポートに全体を提案して、その中から必要なものをエレメントとしてF. 699の改訂の材料として残す。ロジックとしてすっきりするため、それが良いと思う。

いずれにしても、日本の貢献としては、F. 2416に例を提供するのは、比較的今までも行ってきており、いくつかの貢献の一つであるが、F. 699にパターンを提出するのは、後々までインパクトのある重要な改訂になるので、そこはどのようなふうに定式化するかなど、慎重に取り運ぶ必要がある。マザール氏はアンテナに詳しいため、ある程度任せてもよいかもしれないが、彼とよくコミュニケーションを取りながら行ってもらえればと思う。

小川構成員： 了。事務局と相談して、寄与文書の内容とスタイルを書き換えたいと思う。

【資料地-60-3-8、地-60-3-9、地-60-3-10】

「ITU-R 勧告 M. 2010-1 の改訂提案 航行データと称する、500 kHz 帯における海岸から船舶への海上安全及び保安に関連した情報を放送するためのデジタルシステムの特性」、「ITU-R 改訂勧告草案 M. 2058-0 への修正提案 航行データと称する、HF 周波数帯における海岸から船舶への海上安全及び保安に関連した情報を放送するためのデジタルシステムの特性」及び「ITU-R 勧告 M. 493-15 への改訂提案 海上移動業務で用いるデジタル選択呼出システム」について、日本無線の宮寺氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： まず資料地-60-3-8において、和文の経緯に「…全世界的な海上遭難・安全システム（GMDSS）の更新及び近代化のための…」とあるが、「近代化」の意味は具体的にはどのようなことを指している

か。

宮寺氏： GMDSSは1992年に導入されたシステムで、1970年代の技術を使っている。それから30年、40年経っているので、もう少し新しい技術を使ってGMDSS全体を更新できるのではないかと、という意味である。元々、GMDSSの「更新」という言葉を使っていたが、更新というと船主などから嫌煙されてしまうので、「近代化」という弛めの表現を現在、国際機関で使っている。30年前に規定されたGMDSSシステムを最新の技術で見直そうとしているのが近代化である。

三瓶主査： 「近代化」というと、最新ではないような響きがある。

宮寺氏： ただ、「モダナイゼーション」という言葉で、国際海事機関で使われている。

三瓶主査： 「モダナイゼーション」は、「近代化」というより「現代化」ではないか。近代化というとその一つ手前というような言い方である。具体的には、どこが現代化の要素となるのか。

宮寺氏： 例えば、今回のNAVDATのシステムであると、海上安全情報をテレックスで、すなわち文字情報で送信していた。見る方は画面に表示された北緯何度、東経何度にこういう危険があるからこうしなさいと、文字で読んでいた。これがNAVDATになると、データで送信するので、現在、船で使われている電子情報海図システム等のディスプレイに、グラフィックにエリアを図示して、ここにこういう危険があるということを図示できるようになる。これはその一例である。

三瓶主査： 了。

(4) ITU-R SG 5 関連会合の対処方針案について

【資料地-60-4】

ITU-R SG 5 関連会合の対処方針（案）について、事務局から、説明が行われ、特段の質疑なく承認された。

(5) その他

事務局より参考資料の説明があった。

以上